

アジア学生カンファレンス 2013

Asia Student Photonics Conference 2013

H25会自06

開催日 平成25年7月24日～平成25年7月26日 (3日間)
開催地 大阪大学 フォトニクスセンター
申請者 大阪大学 大学院工学研究科 博士後期課程 牛 場 翔 太

会議の概要と成果

1. 会議の状況

本会議には、中国、台湾、マレーシア、シンガポール、インド、そして日本といったアジア各国から70名以上の学生および若手研究者が一堂に集いました。本会議は、学生が主体となって企画・運営した会議としては世界最大規模であり、参加者・招待講演者・スポンサー (SPIE (国際光工学会) などを含む) から非常に高い評価を得ました。

本会議の目的は、次世代の科学を牽引する優秀な若手研究者が交流し、将来の共同研究に繋がる研究者ネットワークを生み出す希少な機会を提供するというものでした。この目的を達成するため、参加者間の研究交流・研究者ネットワークの活用についての学習・科学コミュニケーションスキル向上を目的としたセッションを用意しました (詳しいプログラムは別紙にて添付しています)。各セッションの状況を以下に記載します。

1.1. 研究交流に関するセッション

ポスター発表会および口頭発表会を行いました。光回路・光コミュニケーション・イメージングなど、幅広い分野から多数の発表 (口頭発表18件・ポスター発表55件) がありました。参

加者たちは学生同士であったことで、異分野の相手に対しても積極的に質問することができ、活発なディスカッションが生まれました。このような異分野の研究者との活発な交流は、学生が通常の学会では経験できるものではなく、本研究交流は固定観念に縛られず柔軟な思考を持つ若手研究者に新たな着想に繋がる刺激を与えたと考えます。

1.2. 研究者ネットワークに関する講義

著名な教授達 (大阪大学 河田教授、ライス大学 河野教授) が研究者ネットワークをいかに活用しているかをご教授頂きました。教授達がアイデアを思いつく過程で、研究者ネットワークがどういった役割を担っているかなど、本学会でしか聞けない講義内容に参加者達は引き込まれました。参加者達は研究者ネットワークの重要性を再認識しました。

1.3. 科学コミュニケーションスキルに関する講義

研究交流において、また研究者ネットワークを築く上で、最も重要な能力であるプレゼンテーションおよびライティング技術に関する講義を開きました。参加者達が作成したスライドや文章に対して専門の先生からフィードバックを頂く時間も用意され、各自の改善点を見

つけました。

2. 成果概要

会議によって得られた成果を、(i) ネットワークの確立、(ii) 他国および他分野の研究者からの知識の吸収、(iii) 国際的志向の喚起、(iv) 科学コミュニケーションスキルの向上の4つに大別して以下に記載します。

(i) ネットワークの確立

最も大きな成果として、学生ネットワークカンファレンスが今後アジア中に普及していく風潮を作ることができました。マレーシアやインドの学生が来年の開催に意欲的であり、現在メールで連絡を取り合っています。参加した学生のほとんどはフェイスブックを通じて繋がっており、本会議終了後も続く確固たるネットワークを構築できたと考えます。

(ii) 他国および他分野の研究者からの知識の吸収

光回路、光コミュニケーション、イメージングなど、幅広い分野の研究を知ることができました。各分野でボトムネックとなっている問

題を知り、専門分野ではない学生ならではの解決法を提案できました。その他、各国の学生の性格や研究スタイルの違いに気付き、自身の長所や短所を再認識する等、通常の国際学会では経験したことのない深く広い研究交流を行えました。

(iii) 国際的志向の喚起

河田教授、河野教授の講義は、巨大なプロジェクトを進めているという教授達の確固たる実績に裏付けられた説得力のもと、学生達にとって刺激的なものとなりました。多種多様な研究者との交流や現在とは異なる環境を求める意識が高まり、学生達の研究者としての視野が広がりました。

(iv) 科学コミュニケーションスキルの向上

科学コミュニケーションに関する講義は特に日本の大学では皆無に等しく、すぐに使える実践的な技術を多く吸収することができました。発表者達が講義で得た知識を活用したことで、1人6分という短い時間でも研究紹介、質疑応答をこなすことができました。